

家政学データベースによる家政学の研究動向 2

——1949～1993年のキーワード分析——

阿部幸子¹ 大竹美登利² ○大森正司³ 城島栄一郎⁴ 田中岳文⁵ 戸田泰男⁶
山本政人⁷ 根岸正光⁸ (¹青山学院女短大, ²都立短大, ³大妻女大, ⁴実践女大,
⁵東京農大, ⁶共立女大, ⁷お茶の水女大, ⁸学術情報センター)

〔目的〕本研究はこの度、家政学における研究がデータベース化されたのを受け、これを利用して家政学研究の内容分析を行い、その特徴を明らかにすることを目的とする。本報告では家政学データベースの論文タイトルに用いられているキーワード(KW)を分析、家政学研究の動向と現状について知見が得られたので報告する。

〔方法〕『家政学文献索引データベース』を駆動し、平和情報センターHappinessソフトを用いて、論文タイトルよりKWの自動切り出しを行った。そして、このKWを時系列的、分野ごとにまとめ、出現頻度表、累積出現頻度表を作成した。また、出現頻度表から出現頻度曲線を作成して、高頻度出現語と低頻度出現語、および重要語の割り出しを行い、時系列的、分野間の比較検討を行った。

〔結果〕①出力データ総数106,353件、抽出キーワード総数457,512の中で出現頻度の高い順のKWとして、子ども、幼児、食生活、食品、家庭科教育などが認められた。②時系列的にみると1949～1959年では出現頻度の高い順に幼児、児童、子ども、発達であったものが、1990年代では子ども、食生活、家族、食品となっていた。